

地域ボランティアプログラム

松木日向緑地プログラム 松木日向緑地の竹林整備

連携団体

ひなた緑地遊学会

2020年11月7日（土）

報告



地域ボランティアプログラムが活動再開！

11月7日(土)、ボランティアセンターが運営する都立大独自のボランティアプログラムの一つである「地域ボランティアプログラム(松木日向緑地プログラム)」の活動を再開しました。

同プログラムでは、都立大・南大沢キャンパス内にある松木日向緑地をフィールドとして、里山保全・多世代交流活動に取り組んでいます。今年度初の活動となった今回は、学生2名が連携団体である「ひなた緑地遊学会」の方々とともに、松木日向緑地の東側エリアで竹の間伐を実施しました。

再開までの道のり

都立大ボランティアプログラムは、事前・中間・事後の学習と連動した活動を年間を通じて行っています。さらに、継続年数に応じた参画のステップを設け、「1年目：参加の段階」「2年目：参画の段階」「3年目以降：創造の段階」とそれぞれ位置づけ、2年目の学生をサポート、3年目以降の学生をリーダーと呼んでいます。例年、リーダーの学生が中心となり、年間スケジュールの作成などプログラムの設計を行うのですが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響と大学の方針により、活動再開の見通しがもてないまま、活動休止の状態が続いていました。

その中でも前期には、リーダーの学生に限定したプログラムの参加者募集を行い、これからの活動について話し合ったうえで、さらにサポーターの学生の募集を行うことができました。

残念ながら、事前学習の実施目途が立たず、さらに年間スケジュールの作成もできない状況であったため、新規の参加学生(1年目：参加の段階)の募集は見送ることになりましたが、それでも昨年度から継続して取り組む6名の学生とこれまでの活動の継続に向けて準備することができるようになりました。

後期授業が始まった10月以降は、学生のキャンパス立ち入り制限が解除となり、さらに課外活動も段階的に再開できるようになったため、オンラインでミーティングを重ね、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の検討、課外活動再開のための活動計画書作成などを進め、ようやく11月から活動再開することができるようになりました。

当日の様子

久しぶりに訪れた松木日向緑地には、これまで続けてきた整備活動が振り出しにもどったのではないかと感じるほど竹が増え、高く伸びて、陽の光を遮るほどに密集していました。特に

今回の活動場所



首都大学東京・東京都立大学 ひなたブック製作委員会『ひなたブック』, 2007より

今年は、たけのこが豊作の年であったにも関わらず、たけのこ掘りをする事ができませんでした。このまま竹が密生していくと、他の樹木に陽の光があたり、植物の多様性が失われていくので、竹林の間伐を進めていく必要があります。

竹林整備活動は、のこぎりなどの道具を使ったり、長い竹を倒したりするため、これまでも人と人の距離を十分にとって実施していましたが、今年度はさらにマスクを着用したり、道具を共有せず個々人で消毒・管理することができるようになりました。活動に参加した学生は、手慣れた様子で安全に竹を切っていました。

活動後の振り返りでは、「緑地内に下草が茂り竹を切るときの足場が不安定な箇所があったこと」など、次回の活動に向けてそれぞれが気づいた点とともに、「久しぶりに自然の中で体を動かして気持ち良かった」「マスクをしながらの活動は意外とハードだった」といった率直な感想も共有しました。

例年よりも活動開始が遅くなり、その分自然環境への影響も出ていますが、まずは少しずつ安全に活動を続けていきたいと思えます。

また、毎回の活動の様子を本センターのYouTubeチャンネルで公開していますので、ぜひご覧ください。



都立大ボラセン
YouTubeチャンネル

当日の様子を公開中!

